

希望と愛で戦う人生

秒刻みで変化する選挙の戦況が、ノーベル賞の受賞者の李遠哲中央研究院院長の陳水扁支持の表明によって更に白熱化した。同時に、弁護士後援会も全国より五三六名もの弁護士の連署を集め、史上最大の弁護士応援団を結成し、台湾の極道と金脈政治を斬る改革派の守護として、世論を一新した。他大学教授、民間企業界と内外の民間団体からも陳水扁を擁護する応援団が次々に結成され、台湾を上昇させる気運は頂点に達していた。

翌日三月十八日土曜日投票当日、台湾全国は一ヶ月ほど続いた雨天が、高投票率を促す好天候に晴れ上がった。久しぶりの暖かい日差しを浴び、朝八時半に早く投票して来た僕は、神様と父に祈った。一日千秋の思いを凌ぎ、午後四時になるや否や、又投票所に駆けつけ開票を見た。二時間しないうちに全国の得票が計上された。

陳水扁氏は三十九%の得票率で見事に第十回台湾総統に当選した。

事前に予定されたTIPL0十四階会場に設けられた建国会主催の開票観測兼祝賀会に母と妻と赴いたときは、既に歓声の行き交うめでたい夢現の世界だった。

建国会の会長彭明敏先生と会うと、先生は冒頭に「お父様もさぞ大喜びでしょうが、一緒に今日を迎えたかったのに！」と歓喜と共に述懐してくれた。

当選したものの、高くない得票率はこれからの改革事業の足かせになる懸念もあるが、これで一服して頭を冷やし、未来を熟考することや、時々空想に耽るのも楽しみだ。

慈愛永存

翌日三月十九日、僕は父のお墓に参上した。台北市から車で一時間ほどで着く台湾の東北海岸を眺める墓地だ。閑静な海岸線を見下ろすこのお墓の庭木は、気のせいかもしれない。緑が萌えるように見えた。ただいま、父さん。

亡くなった方と誠しやかに会話の真似をするのも不自然だけど、雑草抜きと掃除をする内に何時しか父宛てに台湾語で万感を打ち明けてしまっている。

悲しみなど暗い気持ちもなく、時々まだ夢で見ている父のお墓に戻ってきた安堵感は心地よい。何でも真面目な割に、いつも悠々自適としている父の付かぬ離れぬ存在のぬくもりは、静かになつて父の面影を浮かべればじわりと感ぜられる。電話の向うで陽気に話してくれる声と表情も。法螺吹きの新やかなジェスチャーと語り口も。挫折で打ちのめされた時に僕を暖かい抱擁で解してくれる父。時々揉み叩いていた細い父の肩。

慈愛の春風が、海のかなたから墓苑の柏木を撫でそよいだ。やがて、晴れ間に浮雲が漂ってきた。今、台湾はしばしの至福を賜られた。この平和な革命に成功した我々は、必ず努力を更に重ね、次々の挑戦に信念と勇氣、そして無私の愛で臨みたい。

かつて父が人生という戦場で勇敢に戦ってきたように。